

インドネシアの日本語教育

—国際交流基金日本語専門家としての教育実践—

鈴木にし紀

1. はじめに

インドネシアのジャカルタ日本文化センター日本語講座では、国際交流基金（Japan Foundation, JF と略記）が開発公開している、日本語教育のための新しいツールである「JF 日本語教育スタンダード」を用いて、その実践を行っている。

国際交流基金日本語専門家として派遣された 2 年間（2013 年 4 月から 2015 年 4 月）の教育実践経験を通して、本論では、次の (1) から (4) のことを述べていきたい。

- (1) インドネシア日本語教育の現状
- (2) JF 日本語教育スタンダードの特徴
- (3) ジャカルタ日本語講座における JF 日本語教育スタンダードの応用
- (4) ジャカルタにおける JF 日本語教育スタンダードの普及活動

ジャカルタ日本文化センターは、世界 31 か所にある国際交流基金の拠点のひとつである。それらが運営する日本語講座では、総数 16000 人が日本語を学習しているが、いずれも、「JF 日本語教育スタンダード (=JFS)」に準拠した新しいタイプの日本語教育方法を用いて教えられている。

JFS とは、日本語能力のとらえ方、レベル設定、目標設定や評価方法などにおいて、CEFR（ヨーロッパ共通参照枠）の考え方を参照しながら JF が開発を始め、学びやすく教えやすい日本語教育を目指して、2010 年に発表された日本語学習のツールである。現在も、国際交流基金では、JFS に準拠した成人向け教科書をレベル別に順次発刊し、ロールプレイテストなどを含めて、開発を続けている。

ジャカルタ JF 講座は、JFS モデル講座として 2012 年から拡充され、JFS の開発と普及に力を注いでいる。同講座では、① JFS 準拠教科書をどのようにして使用するか（初級～中級）、② JFS をどのように市販教科書に応用させるか（中級後半～）という 2 点について、開発が進められている。筆者は、②を中心に担当した。

2. インドネシアの日本語教育の現状

インドネシアの日本語学習者数は2012年872,406人にのぼり、世界第2位の日本語学習者数を誇る（「2012年度国際交流基金日本語教育機関調査」より）。

日本語学習者のうち、95.8%は中等教育機関の生徒たちで、高校の必修科目である第2外国語6カ国語の中に日本語が入っているためである。第2外国語の選択は学校・地域裁量で決められることが多く、①教育文化省と国際交流基金（JF）が共同で開発した教科書（『にほんご』、『さくら』）がある、②大学で日本語を専攻した現地日本語教師が、多言語に比べ多くいる、③アニメなどポップ・カルチャーを通じて日本に高い興味を持ち、勉強したいという生徒が多くいる、という理由から日本語が選ばれている。

しかしながら、2013年カリキュラムでは内容が変わり、より受験に有利な科目を採用する高校・学生が増えていることから、今後の日本語学習者数も減少するのではないかと、との懸念もある。

日本語教師数は2012年17,817人で、2009年6,577人から大幅に増えた。ネイティブ日本語教師の割合は中等教育で2.8%、高等教育では8.2%となっており、90%以上がインドネシア人教師であるが、その日本語力はN3～N4程度がほとんどだと言われている。高等教育では2009年から修士号以上の資格、中等教育のうち高校では学士号の資格に加えて、1年間の教員養成特別課程（PPG）を受講する規則が適応されるようになり、教育文化省語学教員研修所（P4TK）や地方教師会（MGMP）が実施する研修会で質的向上を努めているものの、十分な教育が行き渡っていないのが現状である。（2014 国際交流基金「国、地域別情報」）

また、民間日本語学校については教育形態等について調査途中の段階で、今後まとめていく必要がある。現在、ジャカルタ市内で推定約40校程度が日本語講座を開講しているが、各学校間での情報の共有はなく、それぞれの学校が孤立した状態にある。

今後は、インドネシアの日本語教育において、「2013年以降の日本語学習者数減少」への懸念を振り払う必要があり、そのためには、①日本語教師の質的向上を図る、②民間日本語学校同士の連携を作る、③一般のインドネシア人学習者を増やして学習者層の裾野を広げる、といった課題が挙げられる。

JF ジャカルタでは、中等教育における学習者数減少の根本的な解決として、カリキュラム改訂に伴う新しい日本語教科書の作成を進めたり、各学校の校長への呼びかけをしたり、日本語パートナーズの導入をする、といった活動を進めている。

一方、①～③の課題に対しては、「JFS の普及」が効果的だと考えられる。①では高等教育、

中等教育等で働いている日本語教師に JFS という新しい日本語教育の方法を示し、②では各日本語学校に JFS のセミナーなどを開催することで、日本語学校同士で集まり、学校間での情報共有の機会を提供することができる。③についても、JFS によって日本語が学びやすくなれば、自然に日本語学習をする人が増えると考えられる。

ジャカルタ JF 講座は 2012 年から JFS 準拠モデル講座として拡充を開始し、①～③の課題解決にも貢献できるように、JFS の開発と普及を続けている。

3. JF 日本語教育スタンダードの特徴

ここで、ジャカルタ JF 講座が準拠する「JF 日本語教育スタンダード (JFS)」について、改めて紹介する。JFS は国際交流基金によって 2010 年開発、発表された。以下、同基金の HP を引用する。

JF 日本語教育スタンダード (以下、JF スタンダード) は、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価のし方を考えるためのツールです。JF スタンダードを使うことによって、日本語で何がどれだけできるかという熟達度がわかります。また、コースデザイン、教材開発、試験作成などにも活用できます。

JF スタンダードは、ヨーロッパの言語教育の基盤である CEFR の考え方を基礎にして作りました。CEFR とは、Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment の略で、ヨーロッパの言語教育・学習の場で共有される枠組みです。CEFR は、2001 年に発表されて以来、ヨーロッパのみならず世界で広く着目され、各言語で実際に利用されるようになりました。JF スタンダードも、CEFR の考え方にもとづいて開発しました。JF スタンダードを用いることにより、日本語の熟達度を CEFR に準じて知ることができます

(『JF 日本語教育スタンダード 2010 第 3 版』)

JF スタンダードでは、学習目標を明確にし、学習成果の評価を考えるために、「JF スタンダードの木」「JF Can-do」「ポートフォリオ」という 3 つを柱に考えている。

言語によるコミュニケーションを、言語能力と言語活動の関係で整理したものを「JF スタンダードの木」で表現し、これにもとづいて熟達度を「JF can-do」で示している。「JF スタンダードの木」を使うと、学習計画を立てる際に、重点を置くべき能力が明確になり、学

習目的に応じた学習方針を組み立てることができる。

「JF Can-do」は日本語の熟達度を「～できる」という形式で示しており、CEFR の「Can-do Statement」と重なるものである。どちらも A1～C2 までの 6 つのレベルに分けられるが、両者の Can-do を比べてみると、たとえば以下のように、JF スタンダードでは 12 のトピックに分けて、より具体的で、日本語にとって身近な場面で示されている。

CEFR B1 活動 産出（経験や物語を語る）

Can give straightforward descriptions on a variety of familiar subjects within his/her field of interest. （自分の関心事で、馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べることができる）

JF 日本語教育スタンダード(111) B1

活動 産出（経験や物語を語る/健康）

朝のジョギングなど、自分の健康法について、短い簡単な言葉で友達に話すことができる

JF 日本語教育スタンダード(112) B1

活動 産出（経験や物語を語る/買い物）

電子辞書など、新しく買ったものについて、短い簡単な言葉で友人に話すことができる

JF Can-do は A1～B2 までは充実しているが、C1・C2 は開発途中であり、まだ十分ではない。また、『JF スタンダード 2010 第 3 版』では、my Can-do を作ることができることなども述べられている。

さらに、学習者が日本語の熟達度を自己評価し、学習過程をふりかえるための方法としてポートフォリオを作り、学習過程を記録し、保存する大切さを提案している。

ジャカルタ JF 講座は、以上に述べたような JFS に準拠したモデル講座である。2012 年から順次、レベル別にコースを開講し、2016 年には A1（入門）～B2（上級）全レベルが整う予定である。※注 1 2012 年の拡充開始から現在に至るまで、JF Can-do、ポートフォリオ、授業形態など様々な面について、実際の講座で JFS を応用させる開発を続け、JFS の普及を試みてきた。

以下、筆者が担当した B1 後半、B2 レベルのコースを中心に、ジャカルタ日本語講座の活動

について述べたい。

4. ジャカルタ日本語講座における JFS の応用

4-1. ジャカルタ JF 講座

JFS に準拠した一例として、2015 年 1 月開講したレベル別 6 コースを表 1 で紹介する。講座で対象としたのは 20 歳以上の一般社会人で、定員は 20～30 人。夜 6 時半～8 時まで開講した。コース立ち上げ以来、1 年 2 学期ないしは 3 学期でバラバラに開講していたが、2016 年度以降は、授業時間等を教科書の内容に合わせて一斉開講 2 学期制となるように各コースの期間を設定した。(表 1 参照)

入門、初級、技能別コースは現地のインドネシア人日本語講師が講座を担当した。主教材は、入門 (A1)、初級コース (A2) は国際交流基金から発売されている JFS 準拠の日本語教科書『まるごと ー日本のことばと文化ー』(以下、『まるごと』)を使用した。また、中級 1 (B1) 前半までは『まるごと』試用版を主教材とし、ジャカルタに派遣されたもう 1 人の日本語専門家が中心に担当した。

筆者が担当した中級 2 (B1 後半)、上級コース (B2 後半) は JFS 準拠の教科書が 2015 年 1 月の時点で作成待ちまたは作成未定であることから、市販の教科書を使って JF スタンドをコースに反映させることを目指した。

4-2. ポートフォリオと Can-do チェックリスト、ロールプレイテスト

ジャカルタ日本語講座では、すべてのコースにおいて、ポートフォリオと Can-do チェックリストを使用した。ポートフォリオや can-do チェックリストは、記入したり整理するのに時間を要するので、大変だと感じる人も多かったようだが、一方で、自分の学習進度を確認したり、日本語学習の成果をまとめるのに非常に効果的であった。

また、ジャカルタ日本語講座立ち上げ時は開講時期が不定期だったコースを 2016 年度から一斉同時開講するよう変更していくのにもなって、ロールプレイテスト実施の準備もすすめた。

表 1. 2015 年 1 月 JF 講座 開講コース

コース名	JFS レベル	教材	内容
入門	A1	『まるごと-日本の	自分の趣味や旅行などについて簡単に話し

		言葉と文化ー（入門 A1）』	たり、短いブログを読んだり書いたりします。
初級	A2	『まるごと-日本の言葉と文化ー（初級 A1）』	「有名な場所」やライフスタイルについて簡単に、メモを見ながら話したりします。 (2015 年 4 月開講)
初中級	A2/B1	『まるごと-日本の言葉と文化ー（初中級 A2/B1）』 試用版	スポーツ、家、食生活などについて、自分の意見や感想などを、短くて簡単な日本語で話したり、情報交換したりします。
中級 1	B1 前半	『まるごと-日本の言葉と文化ー（入門 B1 前半）』 試用版	おすすめの料理を説明したり、自分の好きな音楽について理由や魅力を説明したりします。
中級 2	B1 後半	『日本語を学ぼう（中級中期）』	「教育」について論拠を示して賛否を述べたり、お金の節約方法について説明したりします。
上級 1	B1/B2	『トピックによる日本語総合演習（上級）』	「宗教」「環境」について、新聞記事など一般的な文章を読んで、自分の意見を言ったり、情報交換をしたりします。
技能別 新聞 読解	B2	生教材	人間関係、仕事と職業に関する記事を読んで、新たな情報や筆者の立場・主張などを理解したり、それに関する意見を述べたりします。

4-3. 市販教材を使った JFS の応用

以下、市販の教科書を使った 2 つの講座について紹介する。

4-3-1. 中級 2 (B1)

開講時期：2014 年 12 月 2 日（火）～3 月 24 日（全 14 回、21 時間）

主教材：『中級を学ぼう（中級中期）』第 4、6 課

学習者：インドネシア人（会社員 13 名、企業家 1 名、日本語講師 1 名、学生 2 名、主婦 2 名）

学習者の目的：日本人とコミュニケーションするための日本語を向上させたい。仕事のやりとりや簡単なプレゼンができるようになりたい。

コースの目標：

- ①自分の持ち物について、色や形状を、ある程度くわしく友人に話すことができる (B1・102 改)
- ②インターネットの質問コーナーなどに、「なぜ大学へ行く必要があるのか」、自分なりの視点で、明瞭に詳しく書くことができる (B2・171)
- ③自分の1カ月あたりの生活費や節約術について、友人や家族と簡単なコメントや意見を交換することができる (B1・205)
- ④自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、インドネシアのお金のデザインや由来について、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる (B1 142)

評価：テスト 40%、発表 20%、課題 20%、授業参加度 20%、ポートフォリオ A～C

コーススケジュール：

回	課	内容	文法、表現	training
1	L4 「算 数」	学期オリエンテーション	もたらす	ポートフォリオ
2		本文①「計算の方法を説明する」	～に至る	シャドーイング
3		本文②（並んだ2つの直方体）	V タ N	シャドーイング
4		円筒形	～点	ポートフォリオ
5		2つの物の違いを説明する	～なりに	シャドーイング
6		教育現場	～うえで	シャドーイング
7		なぜ大学へ行くのか	文法復習	ミニテスト
8	L6 「お 金」	お金のいい点と悪い点 お金の諺	～とはいえ	ポートフォリオ
9		本文 「古くなったお札の行方」	～ぶり ～やら～やら	シャドーイング
10		銭洗い弁財天	たとえ～でも	シャドーイング
11		節約術	～当たり	ポートフォリオ
12		お金のデザイン発表	～と、～	シャドーイング
13	終了テスト			
14	インタビュー発表会「お金の使い道」「教育」			

4-3-2. 上級 (B2)

開講時期：2014 年 12 月 3 日（水）～3 月 18 日（全 12 回、21 時間）

主教材：『改訂版 トピックによる日本語総合演習』スリーエーネットワーク

学習者：インドネシア人（会社員 17 名、日本語講師 1 名）

学習者の目的：総合的に日本語力を向上させ、広い話題で話せるようになりたい、仕事のやりとりや、簡単なプレゼンテーションができるようになりたい。

コースの目標：

- ①「宗教」「環境（リサイクル）」に関する新聞記事を読んで、新たな情報や筆者の立場・主張とその論拠を理解し（can-do64・B2）、自分の意見を述べることができる。
- ②「宗教」「環境（リサイクル）」に関するニュースや新聞記事をきっかけに、社会問題について自分の視点を明確に述べることができる（Can-do122・B2）

評価：テスト 40%、発表 20%、課題 20%、授業参加度 20%、ポートフォリオ A～C

コーススケジュール：

回	課	内容	training
1	L3 「生活習慣 と宗教」	「宗教心」①、グラフ	ポートフォリオ
2		「宗教心」②、	シャドーイング
3		「宗教心」③、ディスカッション	シャドーイング
4		「お化けの 5 条件」①	こわいニュース紹介
5		「お化けの 5 条件」②	シャドーイング
6		情報交換会	漢字テスト
7	L4 「リサイク ル」	「循環型社会」①	中間ミニテスト
8		「循環型社会」②	ポートフォリオ
9		「循環型社会」③	シャドーイング
10		「プラスチックごみ？資源？」①	シャドーイング
11		「プラスチックごみ？資源？」②	シャドーイング
12		「プラスチックごみ？資源？」③	漢字テスト
13		情報交換会	
14	終了テスト		

4-3-3. JF スタンドールの応用

3-2 では、筆者が担当した B1 後半と B2 レベルのクラスで、JF スタンドールを応用させて、

市販の教科書で学習したコース例を紹介した。

上級（B2）のクラスではトピック別の教科書を使用したため、JF スタンダードのトピックとも合致し、比較的容易に JF can-do を当てはめて授業を行うことができた。

一方、中級（B1 後半）のクラスで使用した教科書は文法シラバスに沿った 4 技能統合型の教科書で、どのように JF スタンダードを応用させるか、ということが非常に難しい課題であった。

はじめに考えられる方法としては、①教科書の提示順に授業をすすめて、最終的にその課で「なにができる（can-do）か」を明確に提示していく方法、であった。集中して行われる語学教室などで、たとえば「1 日目は導入、2 日目に文を読んで、3、4 日目に文型を勉強して、5 日目にディスカッションや作文などの発展的な活動を行う（図 1）」という順序で授業を進めていった場合、導入で該当課の can-do を提示した後は、毎時のはじめと終わりに確認をする程度でも、継続して意識される。対して、ジャカルタセンターのように、一般社会人など仕事をしながら週 1 回のクラスで日本語を学ぶ人たちを対象とした場合、①のように can-do を維持することは難しい。

そこで、② 1 つの課の中でさらに、関係するトピックをつなげて、1 回の授業で「なにができる（can-do）か」を授業ごとに提示し、最終的に大きな can-do が達成できる方法（図 2）、をとった。

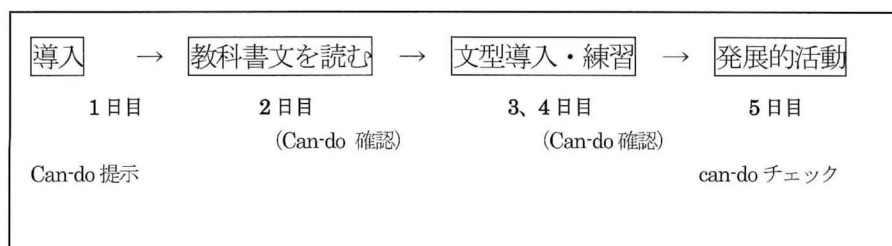


図 1 教科書の提示順重視の場合の can-do 提示例



図 2 can-do 重視の場合の can-do 提示例

たとえば、『中級を学ぼう（中級中期）』第6課は「お金」についてだが、全体として「お金について詳しい情報を、友人に質問したり、答えたりすることができる」という1つの can-do が目標としてあったうえで、第2回目は「紙幣の処理方法に関する文を読んで、主要な情報を理解することができる」、第4回目は「自分の節約術について、友人と意見交換できる」といったように、小さな can-do を設定して、時間ごとの目標を明確にした。

その際、たとえば「節約術」に関して学習する場合、関連した話題（生活費）、語彙や文法項目（「～当たり」「～と」）を組み合わせさせて勉強した。

書こう

テーマ：節約術

やってみると、意外に簡単な節約術がある。例えば、私は歩くのが苦にならないので、バスや電車に乗らないようにして、交通費を節約している。

3. ～当たり

1) 読もう・書こう

A. 読もう

1 世帯当たり年平均1か月間の支出

	世帯人員	食費	住居費	交通・通信費	教養娯楽費
大都市	2.23 人	62,315 円	22,540 円	30,265 円	29,651 円
町・村	2.86 人	58,161 円	13,664 円	39,510 円	25,858 円

出所：『平成20年度家計調査報告』2

①町・村が大都市より支出が多い項目は何ですか。

②その理由について考えなさい。

B. 書こう

テーマ：私の生活費

① 食費：1 か月当たり (円)

② 交通費：1 か月当たり (円)

③ 娯楽費：1 か月当たり (円)

自分の生活費について考えてみた。

このように授業ごとに、「(今回の授業で) 何ができるようになるのか」ということを明確化することによって、学習者のモチベーションをあげ、学習者が学習過程をふりかえりしやすくすることを狙った。

授業を通してみて、can-do があることによって、教師にとっても学習者にとっても授業の時間に「何を学習するか」が明確化し、目的に向けて授業を進めることができた。

一方で、市販の教科書を使った場合、教科書の順序どおり進めないことが多かった。そのため、予習をきちんとやってくる学習者などは、次の時間何を勉強したらいいのかわからないので混乱してしまった。対応策として、授業終了時に必ず次回の予告をし、宿題は復習と予習にあたるものを作成した。また、学習計画も事前に綿密に作成し、配布したが、コース全体の流れが見えにくいという問題は最後まで残った。教師にとっても教科書のどこどこを結びつけて1時間ごとの can-do にするのか考えるのにとても時間を要し、全体の学習計画を立てることが難しかった。

参考として、ジャカルタ JF 講座「中級2」で使用した『中級を学ぼう（中級中期）』の学習項目と「中級2」の Can-do との対応例を資料1に挙げる。教科書の作成者には、導入から発展的活動に至るまで明確な意図があり、本来、その意図に従い授業を進めることで学習者の理解も深まる。試験的ではあったが、②のような授業の進め方は教科書作成者の意図を捻じ曲げてしまう結果となり、その点からも「このような授業の進め方でよいのか」という葛藤が生まれた。Can-do の達成では必ずしも文法理解を必要としないと言えるので、根源的な問題として、文法シラバスに沿った教科書を無理に can-do に当てはめようとしたことが今回の反省につながったかもしれない。

JF スタンダードの序文には、「(JF スタンダードを使うことにより) 日本語がよりまなびやすくなる」と記されている。②の方法で、毎時の Can-do を明確にし、今自分が何を学んでいるのかをわかりやすくする狙いがあったが、逆にコース全体を混乱させてしまう事態も生じた。JF スタンダードのコンセプトに従い、よりわかりやすくまなびやすくなるように、一層効果的な授業方法を考えたい。

5. ジャカルタ日本語講座における JFS の普及

2. では、インドネシアの日本語教育現場には、①日本語教師の質的向上を図る、②民間日本語学校同士の連携を作る、③一般のインドネシア人学習者を増やして学習者層の裾野を広げる、といった課題があり、それらの課題解決に向けて、「JFS の普及」を効果的に行う必要があることを述べた。

ジャカルタ JF 講座は、JFS のモデル講座として 2016 年に向けてようやく基盤が整ってきたところである。これまでも①～③の課題を念頭に置いて、JFS を普及させる活動を行ってき

た。今後は、JFS を使った講座を、より広くの人に見てもらい、多くの人に JFS を体験してもらう必要がある。

5-1. セミナーの実施、見学者の受入れ

ジャカルタ JF 講座は 2012 年より以前は、民間日本語学校では開講が難しいとされる上級コースのみ開講していたが、JFS のモデルコースとして入門、初級コースを開講することになった。その際まず、民間日本語学校、一般日本語教員向けに JFS、モデル講座の説明会を実施した。

次に、JFS ならびに JFS 準拠教科書『まるごと』についても、高等教育のインドネシア人日本語教師たちを中心に 2013 年 11 月、12 月、2014 年 4 月の計 3 回、セミナーを実施した。その際、『まるごと』を使った模擬授業を通して体験してもらったり、実際の授業を見学してもらったりした。

さらに、2015 年春の『まるごと』現地出版の実現を機に、民間日本語学校に向けてセミナーを行ったり、また一般日本企業の採用担当者に向けて JFS を広めたりする計画を進めている。

5-2. 学習者層の拡大

「③一般のインドネシア人学習者を増やして学習者層の裾野を広げる」という課題に向けては、JF 講座では、定期講座とは別に「文化日本語講座」を実施した。これは日本語に全く触れたことがない一般の人たちを対象として、日本文化体験を通して、幅広く日本語に興味を持ってもらうことを目的とした講座である。「着物体験講座」「キャラクター展ジョイント講座」「世界遺産展ジョイント講座」「食事とマナー講座」「ジャカルタジャパン祭り日本語講座」「ふろしき体験講座」などの講座を実施し、日本語のあいさつや買い物表現、訪問の表現、ひらがななどを紹介した。また、2. で述べた中等教育での日本語学習者が減ることが危惧される現状を踏まえて、中学校出張日本語講座も試みた。日本語を勉強したことがない人たちでも、このような講座に集まってくる人たちは「習ってみたい」という強い興味を持っていて、日本語に対する関心の深さを感じた。文化日本語講座の参加者は、2015 年度のべ 608 名であった。定期講座の受講者を含めると、2015 年度は、のべ 1089 人のインドネシア人が JF 講座で日本語を学習するに至った。

JF 講座で入門コースを開講すると、30 名定員のクラスに 300 名の受講希望者が集まるほどの人気があるが、諸々の問題があり、複数コース開講することは難しい。こうした日本語学習

に興味がある人たちの受け皿を増やし、「より学びやすく教えやすい」日本語教育の環境を整えていくことが望まれる。そのためには、日本語学習を堅苦しく考えず、「日本語で買い物ができる!」「日本人とあいさつができた!」といったところから始められるような JFS の考え方をさらに広めていくことが必要だと思われる。

6. まとめ

本論では、JFS に準拠したインドネシアのジャカルタ JF 講座について、その普及と開発という観点から述べてきた。

第2章では、インドネシアの日本語教育の現状について全般的に述べた。2012年インドネシアの日本語学習者数は世界第2位であるが、今後は日本語学習者数が減少する懸念があり、①日本語教師の質的向上を図る、②民間日本語学校同士の連携を作る、③一般のインドネシア人学習者を増やして学習者層の裾野を広げる、という3つの課題があげられた。これらの課題解決のために、JFS の開発と普及を効果的に行う必要があるとした。

第3章では、この JFS の特徴を述べた。JFS は日本語学習を「学びやすく教えやすくすること」を目指している。日本語の熟達度を「～できる」という JF Can-do で示して学習目標を明確にし、学習計画を立てる際に「スタンダードの木」を用いると同時に、「ポートフォリオ」を使って学習成果の評価を考える、日本語学習のツールであることを説明した。

第4章では、JFS 準拠モデル講座であるジャカルタ JF 講座の JFS 開発の様子を紹介した。A1～B1 前半レベルのコースでは JFS 準拠の教科書を使って、B1 後半以降のコースでは市販教科書を使って実施した。本論では、後者について内容を紹介した。文法シラバスによる4技能統合型の教科書を使った授業とトピックシラバスによる教科書を使った授業2つについて JFS を使ってみたが、特に文法シラバスの教科書の場合、授業を組み立てる際、学習項目と Can-do とを対応させることが難しい。Can-do を使うことで目的が明確化する一方で、教科書の順序どおり進められなかったため、全体の流れが見えにくくなる問題が出た。「学びやすく教えやすい」JFS のコンセプトに合った教え方をするには今後さらに研究が必要である。

第5章では、第2章で述べた①～③の課題解決に向けて、ジャカルタ JF 講座が行っている「JFS 普及」について述べた。ジャカルタ JF 講座では JFS のセミナーを開き、JFS 普及に努めている。また、定期講座のほかに開いている「文化日本語講座」には、非常に多くの人たちが日本語を学習してみたいと思って集まってくる。彼らのような日本語学習者の裾野を広げるためにも、JFS の開発は重要であり、今後も開発と普及を続けていく必要があることを述べた。

以上、筆者が2年間、インドネシアのジャカルタ JF 講座に派遣された経験をまとめ、JFS の開発と普及について述べた。今後もこれらの研究が続き、インドネシア日本語教育がますます発展することを願っている。

資料 1. 『中級を学ぼう (中級中期)』の学習項目と Can-do との対応例

/課	トピック (学習内容)	文法、表現	can-do (JF can-do) ※ <u>下線部分</u> は JFcan-do を変更して、my can-do にした
L1 色	色のイメージ 色占い	～という 色に関する表現	(B1 66-69) <u>色に関する記事</u> を読んで、取り上げられている主要な情報を理解することができる
	省エネ効果 (緑のカーテン)	～による ～と同時に	(B1 219) 家庭でできる温暖化対策について考えるワークショップなどで、自分の取り組みを紹介したり、さまざまな解決案を提案したりしてディスカッションに参加することができる
	身の回りの色 (ポスト、病院)	～基づく～	(B1 3-5) 発音と内容がはっきりしていれば、 <u>ポストや病院などの身の回りのものについての簡単な説明</u> を聞いて、主要な情報を理解することができる
	看板の色 グループ発表	～際	(B1 142) 自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、 <u>町でみかけた看板について、色の効果を示しながら、まとまりのある簡単なプレゼンテーション</u> をすることができる
L2 ユーモア ジョーク	エープリルフール インドネシアの行事	～とされている	(B1 139) いろいろな国の人の集まりなどで、あらかじめ準備してあれば、 <u>インドネシアの行事</u> についてまとまりのある簡単な発表をし、想定した質問に対応することができる
	特技、自慢を発表	～にかけて ～までになる	(B1 102) <u>語学やスポーツなど、自分の</u>

	壁新聞を作る	ただ～さえ ～ことで	<p>特技や自慢について、始めた理由などを簡単にあげながら、友人に話すことができる</p> <p>(B1 155) 自分が参加しているグループの活動紹介文を、ある程度詳しく<u>壁新聞</u>などに書くことができる</p>
L3 制服	制服のいい点、悪い点	～ところ	(B2 198) 友人や家族と、 <u>会社や学校の制服</u> （またはコンビニ）の効果や問題点などについて、根拠を示しながら自分の意見を述べたり、相手の意見に反論したりしながら、活発に話し合うことができる
	結婚式の服装 コンビニのいい点、悪い点	～における ～を問わず	(B1 202) 映画やドラマなどの内容について、友人や家族と簡単なコメントや意見を交換することができる
	好きな映画の紹介 歴史上有名な建物紹介	～向け ～上	(B1 142) 自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、 <u>自分の国の歴史上有名な建物</u> について、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる
	ディスカッション 「制服について」		
L4 算数	数学のプロセス	～なり ～に至る	(B1 99) <u>図形の面積</u> など、 <u>簡単な計算のプロセス</u> を順序立てて友だちに説明することができる
	2つのものの相違点 ・ハイブリット車とディーゼル車	～という点／ 点 ～と比べて (L10)	(B1 103) <u>ハイブリット車とディーゼル車</u> など、 <u>似ているが異なったものについて、その違いを比べながら</u> 、ある程度詳しく友人に話すことができる

	教育問題	～たうえで ～に関わる	<p>(B1 69) <u>教員採用試験や子どもの学力</u> など、<u>教育現場での問題</u>に関する簡単な 新聞記事などを読んで、重要な情報を理 解する</p> <p>(B2 171) <u>インターネットの質問コーナ</u> <u>ーなどに、「なぜ大学へ行く必要がある</u> <u>のか」、自分なりの視点で、明瞭に詳し</u> <u>く書くことができる</u></p>
L5 遊びと 運動	ラジオ体操 適度な運動	～ばかりでな く、～も／～ を通して	<p>(B1 99) <u>インドネシア体操など、よく</u> <u>知っている運動の簡単な方法を順序立て</u> <u>て友だちに説明することができる</u></p>
	子どもの遊び インターネット の利用	～もたらす	<p>(B2 64) <u>現代の子どもの遊びに関する記</u> <u>事</u>を読んで、新たな情報や筆者の立場、 主張とその論拠などを理解することがで きる</p>
	ポスター発表 「昔の遊び」		<p>(B1 142) 自分の国について学ぶ集まり で、あらかじめ準備してあれば、<u>自分の</u> <u>子どもころの遊びについて、まとまり</u> <u>のある簡単なプレゼンテーションをする</u> <u>ことができる</u></p>
L6 お金	お金のいい点と 悪い点 お金に関するこ とわざ	～とはいえ	<p>(B2 198) 友人や家族と、<u>お金の効果</u> <u>や問題点などについて、根拠を示しなが</u> <u>ら自分の意見を述べたり、相手の意見に</u> <u>反論したりしながら、活発に話し合うこ</u> <u>とができる</u></p>
	本文（お札の行 方） お金のデザイン	～ぶり ～やら～やら	<p>(B1 66-69) <u>造幣局のお金の処理の仕方</u>に 関する新聞記事を読んで、取り上げられ ている主要な情報を理解することができ</p>
	生活費	～当たり	

	節約術	～と、～	<p>る</p> <p>(B1 142) 自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、<u>インドネシアのお金のデザイン</u>や由来について、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる</p> <p>(B1 205) <u>自分の1カ月あたりの生活費や節約術</u>について、友人や家族と簡単なコメントや意見を交換することができる</p>
L7 水	「水への関心」	～以上に	<p>(B1 205) 環境問題のテレビ番組などの内容について、友人や家族と簡単なコメントや意見を交換することができる。</p> <p>(B2 198) 友人や家族と、<u>車社会、ネット社会、自動販売機の電力</u>などの社会問題について、根拠を示しながら自分の意見を述べたり、相手の意見に反論したりしながら活発に話しあうことができる。</p> <p>(B1 47) <u>雨の日グッズ</u>について、いくつかのメーカーの商品を比較する雑誌やサイトなどの簡単な記事に目を通して、それぞれの特徴など、どれを買うか決めるために必要な情報を探し出すことができる。</p> <p>(B1 143) 弁論大会などで、あらかじめ準備してあれば、<u>環境問題に関する自分の意見</u>を含んだまとまりのある簡単なスピーチをすることができる</p>
	自動販売機	～っぱなし	
	ドリンク剤の功罪	～を抜きにしては～ない	
	車社会、ネット社会	～おかげで ～せいで	
	雨の日グッズ	～がち	
L8 血液型	血液型性格判断 DNA	～にもかかわ らず	<p>(B1 44-49) <u>雑誌の星占い</u>など、ある程度長い文章に目を通して、<u>自分や友だち</u></p>

		～にたとえられる	の性格など、必要な情報を探し出すことができる
L9 漫画・アニメ・本	はなさかじいさん		(B1 99-104) <u>はなさかじいさん</u> など、 <u>日本の簡単な昔話</u> を順序立てて友人に話すことができる
	活字離れ	～と言ってもいい	(JF198) 友人や家族と、 <u>コピペや活字離れ</u> の効果や問題点などについて、根拠を示しながら、自分の考えを述べたり、相手の意見に反論したりしながら活発に話し合うことができる
	コピペの功罪	～つつ、	(B2-171) 通販サイトの本のレビューコーナーなどに、自分が読んだ本の書評を、自分なりの視点で、明瞭に詳しく書き込むことができる
	あなたが好きな本の紹介	～めく	
L10 ヒトと動物	ペットブーム	～かのように	(B2 198) 友人や家族と、 <u>ペットを飼うこと</u> の効果や問題点について、根拠を示しながら自分の意見を述べたり、相手の意見に反論したりしながら、活発に話し合うことができる
	コミュニケーション	～のに対し	(B2 64) <u>人間や鳥のコミュニケーション方法</u> に関する文を読んで、新たな情報や筆者の立場、主張とその論拠などを理解することができる
	外国語の勉強	～までになる	(B1 143) 弁論大会などで、あらかじめ準備してあれば、 <u>外国語を勉強した経緯や母語と外国語との違い</u> を含んだまとまりのある簡単なスピーチをすることができる

【謝辞】

本稿は、2016年12月12日におこなわれた「長野・言語文化研究会」での発表内容に加

筆・修正したものです。会場では多くの意見を頂戴し、執筆の際は信州大学人文学部教授の沖裕子先生にご助言をいただきました。また、国際交流基金ジャカルタ日本文化センター在職中は、上級日本語専門家の八田直美先生、日本語専門家の二瓶知子先生、ジャカルタ日本文化センター常勤講師エフィ・ルシアナ先生、同講師テトリアナ・サウィトリ先生に多くの仕事を支えていただきました。記して感謝申し上げます。

【注】

注1 2015年3月現在の状況であり、2015年4月以降、実際にジャカルタセンターでどのようなJF講座が展開しているか、筆者は把握できていない。

【参考 Web サイト】

国際交流基金「JF 日本語教育スタンダード 2010」(2016/3/30 アクセス)

<https://jfstandard.jp/top/ja/render.do>

国際交流基金「JF 日本語講座」(2016/3/30 アクセス)

<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/education/jf/>

国際交流基金「まるごと－日本のことばと文化－」(2016/3/30 アクセス)

<https://jfstandard.jp/language/ja/render.do>

国際交流基金「世界の日本語教育の現場から」インドネシア (2016/3/30 アクセス)

<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/teach/dispatch/voice/voice/>

国際交流基金「2012 年度海外日本語教育機関調査」結果概要(2016/3/30 アクセス)

<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey12.html>

【参考文献】

来嶋洋美・柴原智代・八田直美 (2012) 「JF日本語教育スタンダード準拠コースブックの開発」『国際交流基金日本語教育紀要』8、103-117

嘉数勝美 (2011) 「JF日本語教育スタンダード」がめざす日本語能力とは何か」『早稲田日本語教育学』第9号

塩澤真季・石司えり・島田徳子 (2010) 「言語能力の熟達度を表す Can-do 記述の分析—JF Can-do 作成のためのガイドライン策定に向けて—」『国際交流基金日本語教育紀要』6、23-39

森本由佳子・塩澤真季・小松知子・石司えり・島田徳子 (2011) 「コミュニケーション言語活

動の熟達度を表す JF Can-do の作成と評価—CEFR の A2・B1 レベルに基づいて—」『国際交流基金日本語教育紀要』7、25-42

小松知子、横山紀子(2012)「JF日本語教育スタンダードセミナーの報告と評価—参加者による言語熟達度の記述の分析から—」日本言語文化研究会論集 第8号

【参考資料】

平井悦子、三輪さち子(2009)『日本語の文型と表現82 中級を学ぼう(中級中期)』スリーエーネットワーク

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・坂本まり子・田口典子 編著(2010)『改訂版 トピックによる日本語総合演習(上級)』スリーエーネットワーク

(すずき にしき・元国際交流基金日本語専門家・現長野県下諏訪向陽高等学校教諭)